

## 前回の懇談会でいただいた意見の概要

### 《人材育成・未来への投資》

#### ＜全般的事項＞

- ・市の行っている投資事業などは、総合計画等に基づき体系立てられていることが分かった。
- ・市全体として、適正な施策・事業が適正な規模で行われていることが大切で、そのことを市民にわかりやすいように明確に説明することが重要である。
- ・今回紹介のあった各事業を含む財政見通しについて、令和6年度までの健全性は確認できたが、公債費の実質負担が将来的に増える見込みとなっている。長期的には、今後の人口減少を踏まえ、抑制的な投資展開や建設地方債残高のピーク等を見据えた財政運営が必要ではないか。
- ・将来に備えた人材育成や投資も必要なことは理解できるが、無駄にならないよう、事前にK P I（重要業績評価指標）を設定し、効果検証と必要な見直しを絶えず行っていくことが重要。計画や建物をつくったら終わりではなく、無駄にしないためには、その後の実行力などが試される。
- ・K P Iの設定が困難なものは、「いつまでに〇〇の検討を行う」等のスケジュールを明確にしていくことが重要である。
- ・施設整備にあたっては、ライフサイクルコスト（建設費のほか、維持管理経費や修繕費などを含む費用）に見合う効果があるか、あるいは施設の維持管理経費を将来にわたって負担し続けることが可能なか検討する必要があるのではないか。
- ・P F I方式（民間の資金や技術能力をより活用した公共施設の整備や運営手法の一つ）は施設整備等の経費削減に有効であるため、これからも積極的に取り入れてはどうか。
- ・施設整備にあたっては、機能を統廃合する既存施設は、跡地の処分方法なども同時に整理していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス禍の中、公共施設の指定管理者やテナント出展の中小企業も厳しい経営状況となっているのではないか。市は、指定管理者等に運営を任せただけでなく、設置者として一緒になって経営責任を果たしていくことも必要ではないか。
- ・交流人口や観光客の増を狙った施設も否定しないが、それだけでは日常的な集客（利益）の獲得が難しいので、市民も日頃から気軽に利用できるよう、日常的に購入できる農産品なども取り入れてはどうか。洗練されたようなデザインの施設や事業もよいが、地元色もあった方がよい。

- ・また、観光客や利用者などを見込む施設は、来て見てもらうだけでなく、市内でお金を使ってもらうことを一層意識した施策展開を総合的に検討・実施するよう望む。
- ・施設の運営経費の削減は人口が減少する中では重要だが、収入を増やす工夫や努力、魅力向上策も同時に検討しなければならない。
- ・起業させることが市の産業施策の本来の目的ではないと考える。雇用や税収の増などの数値目標をたて、その目標を達成するための施策展開が重要ではないか。

#### ＜個別事項＞

##### 【人材育成】

- ・せっかく育った若者が進学や就職で市外・県外に転出するケースがある。また、市が施策で連携している市内の大学や高専、専門学校の学生も多いが、卒業後に市内に定着する人は少ないとも聞く。人材育成のための費用も「投資」と捉え、長岡に戻って定着して活躍できる場（取組）づくりまでを含む施策などが必要ではないか。
- ・人材育成でも成果を求めることは重要で、何のために、どういった人材が必要なのか明確にして、施策を考えていく必要がある。
- ・I C T活用人材の育成を否定するものではないが、例えば大量のタブレット端末の更新費用やそれを有効に活用し続けていくための専門人材の確保などに課題もあり、そういうことも踏まえながら、持続可能な事業として組み立てていくべきではないか。

##### 【米百俵プレイス（仮称）】

- ・人づくり・学びの拠点というコンセプトが市民によく理解されていないため、大勢の人が活用するための方策や建設する意義を市民に分かりやすく伝えることも、しっかりと検討してほしい。

- ・次回は12月22日（火）午後3時から開催することが確認された。